

学校 教育 目標	○自分をつくる【知】【体】 自己をしっかり見つめ、個性ある存在としての自分を確立していく。 ○想いははぐくむ【徳】 自分だけでなく他者に対する気持ち、接し方、態度などを育てていく。 ○未来へつなげる【公】【開】 他者との関わりや学びあいを通じて、社会の中にある自分を次のステップへ進めていく。			
	学校 概要	創立 55 周年 生徒数: 643 人	学校長 濱崎 利司 主な関係校: ママシのはら保育園・篠原幼稚園・篠原小・篠原西小・港北小・岸根高・鶴見支援学校岸根分教室	副校長 石井 亮 2 学期制 一般学級: 17 個別支援学級: 5

<b>教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</b> ・自分づくりに関する力 ・日本や世界の発展に平和的に寄与しようとする心 ・持続可能な社会の創造に貢献しようとする態度 ・横浜教育DX推進に基づき、ICT機器利活用から学びにデータ活用化できる生徒	<b>篠原中 ブロック</b> 篠原中学校 篠原小学校 篠原西小学校 港北小学校	<b>小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</b> 「しのはら学校支援地域本部」を中核に、 ○自己肯定感をもち、未知のことへ主体的にかかわる子ども ○他者への感謝の気持ちをもち、地域交流、国際交流等自らも社会貢献する子ども ・年間を通して「生徒の誰もが主体的に学習できる授業づくり」をテーマに、体験的な学びの充実とICT機器利活用の効果的な充実を図り、各教科等においてテーマを意識した授業を展開する。ブロックで主体的に学ぶ子どもの姿をもとに協議を行い、9年間で育てる子ども像の実現に向けた授業改善を図る。 ・小学校から引き継いだ、新1年生の「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」等を全教職員で共有し、学校種間で連携した特別支援教育の充実化を図る。
--	--	--

<b>中期取組目標</b> 全教職員で安全・安心、活力と魅力のある学校づくりと「働き方改革」に根付いた学校経営安定化の取組継続を目指し、 ・生徒一人ひとりの状況や思いを大切にしながら、仲間と協働し学びを深める授業づくりを行うとともに、個に応じた指導を充実し、主体的に学習に取り組む態度を養成と個性を認め合い、お互いに高め合える力を養成します。 ・生徒が意欲的に学ぶことのできるように、ICT機器の利活用を図りながら、場・形態・教材の工夫をした授業を実現します。 ・生活習慣改善に向けて、体力・運動能力調査等のデータを活用して自ら生活を振り返り、実践を通じて課題解決する力を育成します。 ・地域活動に主体的に参加し、地域とのつながりを強めることで自分の意見やアイデアを発信する等、将来的に地域社会に貢献できる力を育てます。
---

重点取組分野	具体的取組
<b>知 生きてはたらく知</b> 担当 教育課程委員会・学習指導部	①「どのように学んだか」を振り返ることで、新たな課題を見つけ、質の高い探究を生徒に継続して促す。 ②教科・領域等横断的な視点で年間指導カリキュラムを作成し、ICT機器を活用した学習内容を効果的に深める。 ③「主体的・対話的な深い学び」を推進するために、教科の枠を越えて授業改善に繋がる情報交換の場を作り、全国と市の学力・学習状況調査のデータを活用し、授業力向上を図るとともに、小中一貫教育推進ブロック教科別研究会を開催し、情報共有を図る。
<b>徳 豊かな心</b> 担当 学習指導・生徒指導部	①道徳における学年ごとのローテーション授業や弁護士による一斉道徳授業を継続することで、多角的・多面的な視野の醸成を図るとともに、教科横断的な指導にも取り組み、学校全体で道徳教育の充実を図る。 ②教育相談やY-Pアセスメントを活用しながら、行事や授業への取り組みを通して、他者理解を深めながら、人権意識の醸成を図る。 ③改定された「いじめ防止基本方針」や横浜子ども会議のテーマを基盤に引き続き、生徒の意見を取り入れながら、学校全体でいじめ予防を目指す。
<b>体 健やかな体</b> 担当 保健安全指導部・保健体育科	①誰もが楽しみながら運動に参加できるよう、保健体育科の授業改善を図る。またプロダンサーを招いて授業を行い、「本物」に触れることにより、運動への興味を掻き立てるとともに、体育的行事や集会等を生徒主体で運営できるようにする。 ②生徒が全国や市学状データから、自分や校内での達成状況を理解することで、主体的に健康生活を実践できるようにする。 ③今年度からの中学校給食の全員喫食に合わせ、食育推進を図り、校内運営体制を整え、生徒の健全な食生活の推進につなげる。
<b>公 開 SDGs・国際交流</b> 担当 学習指導部・特活指導部	①教科等の学習内容とSDGs17の目標とのつながりを示し、ICT機器を利活用しながら実社会の課題を自分のこととして捉えて持続可能な取組にできるようにする。 ②生徒会活動をSDGsの視点で見直し、生徒が主体となって身近な課題や社会課題の解決に向けた活動にするとともに、家庭・地域他に発信していく。 ③社会科におけるアフリカ諸国の学習を通じて、その国の大使館と交流を図り、生徒の国際理解につなげる。
<b>いじめへの対応</b> 担当 いじめ防止対策委員会・生徒指導部	①横浜子ども会議等において生徒が話し合う機会を年間計画に設定し、生徒自らが考えるいじめ予防の取組を強化する。 ②月単位で定期的に「いじめ防止対策委員会」を実施し、積極的に認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで、再発防止に努める。 ③教員のいじめ防止研修実施による共通認識のもと、毎日の健康観察(スタナビの活用)や記名式を含む年3回の生徒アンケート等により、生徒の些細な変化を見逃さず、見守る。 ④弁護士による「いじめ予防・一斉道徳授業」によって、法的見地と法令理解によるいじめ予防に取り組む。 ⑤「いじめ防止基本方針」を改定した「あ・い・さ・つ」の取り組みと生徒を主体に継続して見直す。
<b>人材育成・組織運営(働き方)</b> 担当 教務部・メンターチーム	①本校初任の教職員を中心にメンターチームを組織し、管理職を含めミドルリーダーが中心となって定期的な活動を行う。 ②持続可能な組織運営を整え、働きやすく、協働できる体制を構築していく。 ③ICTを日常的に利活用し、生成AIをCopilotを積極的に活用しながら業務の質を高めていく。 ④校務分掌を効率的に機能させ、諸会議や部活動、地域対応等で教職員の負担軽減に配慮する。
<b>地域学校協働活動</b> 担当 教務部(管理職)	①地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)が運営する「しのはら地域学校支援本部」を中心に、キャリア教育の職業講話や地域安全連携の防犯パトロールや市教委放課後学習支援事業の「学び場」を実施する。 また、地域の方々との交流の機会であるグラウンドゴルフやユニホックなどのスポーツによる交流を通して、生徒、職員、地域住民との交流を深める。 ②生徒会本部役員を中心に、目安箱などを通して生徒からの意見や目標を学校運営協議会に伝え、学校運営協議会委員とともに建設的な意見交換からの学校行事の見直しを行う。また、令和8年度からは選挙制度の見直し等にも取り組んでいる。
<b>生徒指導</b> 担当 生徒指導部・各学年	①学校のきまりについては現在の教育及び社会情勢に沿うか検討するとともに、生徒自らが考え話し合う機会を設定し、見直しを図る。 ②年3回の教育相談日の設定、毎日の健康観察(スタナビの活用)、日頃からの声かけなど、生徒一人ひとりの思いに寄り添った生徒指導に組織的に取り組む。 ③「生徒指導研修会」を複数回実施し、Y-Pアセスメントを活用して「支援検討会」を行い、組織的な対応を行う。 ④様々な生活指導に対して、迅速かつ丁寧な対応をするために指導部会及び学年内の情報共有を密に行う。
<b>特別支援教育 個別最適化学び</b> 担当 特別支援教育委員会	①「特別支援教育委員会」の定期開催と内容の充実化を図り、現状や一人ひとりの思いに基づいて、支援を要する生徒理解を深める。 ②特性や障害等を踏まえ、授業参加状況を見直し、生徒の思いに寄り添いながら誰一人取り残さず、授業参加できるように取り組む。 ③「横浜St☆dy Navi」やオンライン授業等、ICT機器の効果的な利活用について全教職員で検討し、情報を共有した上で実践する。
<b>幼保小中高特支 異校種一貫した教育</b> 担当 すこやかC特別委員会	①元市教育委員の長島由佳さんを中心とした地域の活動組織である、「すこやかサークル＊C」を中核に園児・児童・生徒と教職員が異校種間の関わり・連携をもてる機会(すこやか祭り・音楽交流会等)を作り、交流の維持と継続を図る。 ②地元新横浜界隈を代表するイベント、「新横浜パフォーマンス」をはじめ様々な地域イベントに生徒がボランティアとして参加することで、地域と積極的につながって将来地域を背負って立つ人材育成を図る。